



Japanese Association of Supportive Care in Cancer

日本がんサポーターケア学会 ニュースレター

News Letter **No.4**

2019.12

一般社団法人 日本がんサポーターケア学会

Tel: 092-406-4166 Fax: 092-406-8356

Email: jascc@jascc.jp URL: <http://www.jascc.jp>

目次

第5回学術集会に向けて

高橋 孝郎 (第5回学術集会会長 埼玉医科大学国際医療センター支持医療科) ----- 2

第4回学術集会を終えて

佐藤 温 (第4回学術集会会長) ----- 3

第4回学術集会優秀演題賞を受賞して

安部 正和 (静岡県立静岡がんセンター 婦人科) ----- 4

佐竹 康臣 (静岡市立静岡病院 呼吸器科) ----- 5

木村 俊一 (自治医科大学附属さいたま医療センター 血液科) ----- 5

奥村 真帆 (神戸大学医学部附属病院 リハビリテーション部) ----- 6

第4回学術集会より公式 Twitter を開始

渡邊 清高 (帝京大学 医学部内科学) ----- 7

編集後記 (広報・渉外委員会 委員長)

宇和川 匡 (東京慈恵会医科大学 腫瘍センター) ----- 8

第5回学術集会に向けて

第5回学術集会 会長 高橋 孝郎（埼玉医科大学国際医療センター支持医療科）

いよいよ2020合同学会（2020/6/19-20）が半年後に迫りました。
年末の忙しい時期に、抄録作成をお願いし、さらに演題登録期間の延長もできず
誠に申し訳なく思っております。

みなさまには、合同学会になった経緯についてお伝えしておこうと思います。
私が、2020年の学会会長を拝命したときに、内富庸介理事から、自分も緩和医療学会と
サイコオンコロジー学会の会長になったので、3学会で一緒に京都（すでに国立京都国際会館は内富理事が
押さえていました）でやろうよとのお誘いがありました。
時期的に、MASCCと重なるころでしたので、重なれば合同は無理でしたが、1週ずれることがわかりました。
巨大な緩和医療学会（JSPM）、伝統あるサイコオンコロジー学会（JPOS）と一緒にやれば、JASCCのような
まだ出来たてで足元もさだまっていない学会は、一気に吹き飛ばされてしまう危険もあります。
しかし、一緒にやることで、かえってJASCCの立ち位置、存在価値が明らかになる、
それぞれの学会員と顔合わせができて新しいコラボレーションのきっかけになる、
学会員を一気に増やせる可能性がある、などメリットも大きいと考えられました。
田村理事長から、私に任せると言われ、そんな無茶な・無理でっせと内心思いましたが、
内富理事と何度か話し合い、気心もわかり、もっとも揉める原因になるだろう金銭のことが
明確になりましたので合同で行こうと決心しました。

合同のやり方は、それぞれの学会の壁はなくして、参加費も一律とする。
セッションはこれは緩和、これはサイコ、これはJASCCというわけ方はせずに、
可及的にfusionしたかたちとする。これまでのいきさつでJASCC（あるいはJPOS、JSPM）として
やらなければならないセッションは、ほかの学会参加者にも面白い・勉強になったと思われるようにmodify
し大会長企画とするなどし、“主催は合同学会なんだ”とのポリシーでプログラムを組むことにしました。
現在、おおよそのプログラムの骨格はできてきています。
かなり、エキサイティングな企画がめじろ押しとなったと自負しております。
さらに、みなさまの応募演題から、セッションを作ることも考えております。

プログラム作成の過程で思ったことは、JASCCは、やっぱりオンコロジーなんだとあらためて
思いました。JSPMは、もともとがん患者の緩和ケアで始まったので、オンコロジーでの
パリアティブケアがやはり中心ですが、今後は、心不全や腎不全、救急室、神経疾患など
死に直面している患者への緩和ケアの提供も必要になっていきます。そうなるとオンコロジーの色が
だんだん薄くなっていくでしょう。その分オンコロジーであるJASCCががん患者のことは任せろ
とすればいい。“早期からの緩和ケア”はJASCCが中心になってやるべきだと思います。

6月後半の京都は、まだ暑くはないでしょうが、梅雨のはしりです。
快晴とはいかないけど、ザーザー雨ばかりということもないでしょう（楽観的予測）。
台風シーズンにはまだ早い。京都は、インバウンドであふれているので、
はやめに宿をとることをお願いします。

それでは、2020年6月までに、もう1回ぐらい合同学会の進捗状況を
報告したいと思います。みなさまには、今後ともご指導ご鞭撻をお願いいたします。



第4回学術集会を終えて

第4回学術集会 会長 佐藤 温（弘前大学大学院医学研究科 腫瘍内科学講座）

令和元年9月6日(金), 7日(土)の2日間に渡り, 青森市のリンクステーションホール青森で第4回日本がんサポーターケア学会学術集会を無事開催することができました。青森に涼しみに来た参加者の期待を大きく裏切って, 青森らしくない暑い日が続いてしまいました。第1回開催が東京, 第2回が大宮, 第3回が福岡と, 大きな都市で行われてきた本学術集会でしたが, 今回は東北の地方都市開催ということで, 無事に開催できるのかどうかかなり不安がありました。けれども, いざ当日を迎えますと, 参加者は1,000人を超え, 指定演題57題, 一般演題210題に加え, 5つの学術共催企画のすべてが充実した内容であり, 活発な討議が行われておりました。学会員の皆様のご支援の賜物です, この場をお借りしてあらためて感謝いたします。また, 企画にご協力くださいました先生方におかれましては, 無茶な依頼や失礼が多々ありましたこと深謝いたします。けれども, わたしたちの無礼や無理難題にも関わらず, 本当に快く引き受けて下さり, そして積極的にそれぞれのセッションを創り上げて下さりましたこと, 感服するばかりです。正直, かなり手作り感を感じられたかと思います。学会開催のプロモーションビデオやポスター, 果ては学会参加証のデザインはみな教室の秘書さんたちが作ってくれました。学術集会マターの企画に関しましては, 患者相談支援室の看護師さんや社会福祉士さんらのネットワークから要望希望を出してもらい企画しました。テーマは, がん医療を支えるキュアとケア~より豊かな成熟社会をめざして~でしたので, 多職種かつ多領域のメディカルスタッフ, そして患者さん方に創ってもらいました。これまでの人生で知り合った方々が, これほど多く, そしてその方々がこんなにもあたたかく支援して下さることに本当におおきなしあわせを感じました。会長講演は10分弱のほんの短い内容でしたが, 共感して下さる方々からその後も多く声をかけて頂きました。今年中には, 講座のホームページに載せるようにいたしますので, よろしければご覧ください。口演のなかで, ひとの「いのち」には, 生命体としての「いのち」と関係性としての「いのち」の二つがあることを話しました。本学術集会を終えて思うことは, みなさんとの関係性がこれほどまでに大きな“しあわせ”となるものなんだなあとあらためて思っております。繰り返しになりますが, 本当にありがとうございました。さて, 次回第5回は, 日本緩和医療学会及び日本サイコオンコロジー学会との合同学術大会となります。埼玉医科大学国際医療センターの高橋孝郎先生のもと, 6月19日(金)20日(土)に国立京都国際会館, グランドプリンスホテル京都で開催されます。是非, 本学術集会同様に多くの方々のご参加よろしくをお願いいたします。



第4回学術集会優秀演題賞を受賞して

安部 正和（静岡県立静岡がんセンター 婦人科）

～多職種、多科、多施設で創り上げた日本発の制吐療法のエビデンス～

この度は、J-FORCE STUDY（シスプラチンを含む高度催吐性化学療法による CINIV 予防に対する標準制吐療法+オランザピン 5mg の有用性を検証するプラセボ対照二重盲検ランダム化第 III 相比較試験）を第4回 JASCC 学術集会優秀演題賞に採択していただいたこと、試験に参加した 30 施設を代表して御礼申し上げます。

本試験の結果は抄録をご参照いただき、本稿では本試験のような大規模な支持療法試験のキーワードである多職種、多科、多施設について、この試験の立案から完遂までの過程で感じたことを述べさせていただきます。

・多職種：本試験は医師主導でも薬剤師主導でもなく、医師と薬剤師がタッグを組んだ医師・薬剤師主導臨床試験です。プラセボ対照二重盲検試験なので、質の高い運用が求められますが、試験薬を全て制作し各施設と完璧に盲検性を保って試験の質を確保した事務局の橋本浩伸薬剤師をはじめ、各施設の盲検・非盲検薬剤師のみなさまのご尽力あつての試験であったとつくづく感じております。一方でオランザピンは、試験開始当初は保険適用外使用だったのが試験半ばから公知申請で保険適用になり、このような過渡期において被験者に試験の意義や方法といった労力のかかる説明と同意取得をしていただいた各施設の医師・薬剤師のみなさまのご尽力にも感謝です。また、忙しい病棟業務の中、患者さんの観察や試験薬の管理などの試験業務をしてくださった看護師さんたちにも感謝です。

・多科：本試験は単科ではなく、シスプラチンを使用する全ての科が参加可能な試験です。本試験に参加した被験者 710 人のうちわけは、肺がん 50%、消化器がん 20%、婦人科がん 10%、その他 20%でした。研究代表者の私は婦人科医ですが、呼吸器科、消化器科、腫瘍内科、泌尿器科、皮膚科など複数の診療科にご協力いただき試験を遂行できました。各施設での説明会の時にも、私のことを全く知らない婦人科以外の診療科の先生方が熱心に説明を聞いてくださり、質疑応答などできたことが非常にありがたかったです。

・多施設：本試験は 690 例/2 年の集積目標でしたが、予定より早く 1 年半で 710 人の登録をいただきました。試験半ばでのオランザピンの保険適用化も全く関係なく、質の高いエビデンスを日本で創るという目標に向かって最後まで各施設のスピードが緩まずに進捗することができ、参加施設のみなさまには改めて感謝申し上げます。

最後に、初めての抗がん剤治療という心も体も大変な状況の中で試験の意義をご理解いただき参加して下さった患者のみなさまに感謝申し上げます。医師と薬剤師が手を組み、ALL JAPAN で作り上げたこのエビデンスが国内外の制吐療法を刷新できることを切に願います。

佐竹 康臣 (静岡市立静岡病院 呼吸器科)

この度は栄誉ある第4回学術集会優秀演題賞を頂き大変光栄に存じます。会長の佐藤温先生ならびに関係の諸先生方に深謝申し上げます。

本研究は固形がん患者を対象に、静脈血栓塞栓症の頻度を積極的なスクリーニングを用いて前向きに検討するというもので、静岡県内の多施設・診療科の共同研究として実施されました。固形がん患者における静脈血栓塞栓症の頻度は過去の報告と比較しても高く、本研究成果が静脈血栓塞栓症の予防・治療のさらなる発展につながるように務めていきたいと考えております。

最後に、本発表にあたり静岡県立静岡がんセンターの鈿持広知先生、高橋利明先生をはじめ全ての共同研究施設の先生方にこの場をお借りして、深く御礼申し上げます。

木村 俊一 (自治医科大学附属さいたま医療センター 血液科)

このたびは、第4回学術集会優秀演題賞という栄誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。

今回発表させていただいた「持続する発熱性好中球減少症に対する従来型の経験的抗真菌治療と D-index に基づく早期抗真菌治療の無作為割付比較試験 (CEDMIC 試験)」は田村和夫教授が代表を務められる FN 研究会の第6次研究として、当科の神田善伸教授を研究責任者として実施された持続する FN に対する抗真菌薬の治療戦略を比較する無作為割付比較試験です。D-index は好中球減少の深さと持続時間の両者を面積を用いて同時に評価する指標で、真菌感染症の最大のリスクである好中球減少をダイナミックに評価することができます。この臨床試験では、従来型の経験的な抗真菌治療と D-index に基づいて必要性の高い状況のみで抗真菌薬を投与する治療戦略とが比較されました。その結果、D-index に基づく治療戦略は安全に抗真菌薬の使用を減らすことが示されました。

D-index はブラジルのグループが2009年の J Clin Oncol 誌に発表したのが最初で、私たちは自施設の造血幹細胞移植での後方視的検証で D-index が有用であることを確認しました。そこから、この多施設共同の前向き試験が生まれました。私にとっては、後方視的な研究の結果が前向き研究につながり、新しいエビデンスを生み出していくという、臨床医として非常にエキサイティングな時間を間近で経験させていただきました。

本研究では、32 のご施設、423 名の患者様にご参加いただきました。私がこのような栄誉ある場で発表させていただくことができたのは、ひとえに諸先生方のご指導・ご鞭撻のおかげです。また、ご参加いただいたご施設で本研究に携われた先生方、患者様・ご家族、FN 研究会のスタッフの方々に心より感謝申し上げたいと思います。

最後に、このような形で本研究をご評価いただきましたこと、改めて御礼申し上げます。

奥村 真帆 (神戸大学医学部附属病院 リハビリテーション部)

神戸大学医学部附属病院リハビリテーション部 理学療法士の奥村真帆と申します。この度は優秀演題賞を頂き、誠にありがとうございます。本研究は術前にうつ症状のない消化器がん患者さんを対象に、術前の社会的つながりが希薄化していると、術後一年後に新たにうつ症状が生じやすいことを示唆したものとなっております。対象者が少ないため今後は大規模サンプルでの検討が必要ですが、あまり研究がなされていない分野であり、当分野の更なる発展の一助となれば幸いです。

昨年度までは大学院に所属しており、本格的な臨床業務に専念して一年目にこのような栄えある賞を受賞することが出来、大変嬉しく思います。今後も“患者さんが笑顔になれるお手伝いを”のモットーで、臨床業務の傍ら、研究活動にも精進していきたいと存じます。

また、本研究は英語論文化しており、現在学術誌に投稿中となっております。出版された際は、一読頂けると幸いです。

最後になりますが、本研究を実施するに当たり、測定にご協力いただきました患者様、ご家族様、そして、ご指導を頂きました神戸大学保健学研究科小野玲研究室の皆様、職場の皆様がこの場をお借りし、心から感謝申し上げます。



第4回学術集会より公式 Twitter を開始

渡邊 清高（帝京大学 医学部内科学）

日本がんサポーターケア学会公式 Twitter を開始しました！

SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）を活用した学会 PR とフォローのお願い

欧米の主要学会では、ウェブサイトに加えて、Facebook や Twitter、Instagram などの SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）を活用して、最新の研究成果や学会の活動を広く発信する取り組みがなされています。紙媒体や掲示板、メールによる発信とは異なり、参加者だけでなく関心のある利用者が、特定のキーワードやフレーズをもとに SNS で投稿された内容を読んだり、共有したり、議論することができるようになってきています。こうしたことから、広報・渉外委員会では、田村和夫理事長、佐藤温第4回学術集会会長はじめ理事の先生方と連携しながら、Facebook に加え、2019年6月に Twitter アカウントを開設し、学会に関するお知らせやイベント情報などの発信を開始しました。

アカウントは@CancerCareJASCC

パソコンやスマートフォンなど、インターネットからのアクセスの場合、下記の URL からご覧いただけます。

<https://twitter.com/CancerCareJascc>

twitter は、日本語 140 文字以内、英語 280 文字以内の字数制限（2019年11月時点）の範囲内で、要点を簡潔にお伝えしたり、メッセージを直接伝える画像や図を添えたり、詳しい情報に誘導するリンクを添付することができます。tweet（ツイート）という言葉のとおり、短い文字数で「つぶやく」ことで、メッセージをコンパクトかつ印象的に発信する、というわけです。

関連するキーワードで、関心のある話題やテーマについて簡単に紐付けられる「#」で始まるハッシュタグを添えたり、他の人がツイートした内容を転送してほかのユーザーに伝える「リツイート」、お気に入りのメッセージに「いいね！」を添えて注目しやすくする、議論や質問できる「リプライ」、継続的に内容を受けとる「フォロー」など、手軽に情報をやり取りできる機能が多く備わっています。まだ、Twitter を使ったことのない会員の皆さま、「関心がある」「いち早く情報を受け取りたい」「議論に参加したい」など、どんなことでも大丈夫です。

2019年6月のアカウント開設以降、学会の作成するガイドライン、学術集会関連情報など、さまざまな内容を発信しています。9月の第4回学術集会期間中にフォロワーが100名を超え、その数は引き続き増えています。学会のリアルの場合での議論を引き継いでオンライン上で議論したり、MASCC や ASCO、ESMO など海外の学会情報を紹介したり、演題情報の利用ルールを定めた上で発表内容を SNS 上でも紹介し多くの方に成果を届けるなど、さまざまなかたちでの活用が期待されます。2020年の合同学術集会にむけ、すでにハッシュタグを取り決めるなど、着々と準備を進めています。ぜひご自身のアカウントから、@CancerCareJASCC をフォローしてください。

Twitter の利用方法

Tweet	日本語は 140 文字以内
@ユーザーネーム	twitter 上で検索できます (@CancerCareJASCC)
#ハッシュタグ	tweet 一覧を読めます (例: #CancerCareJASCC #JASCC20)
フォロワー	「フォローする」をタップすると、今後の tweet を読めます
リプライ	ユーザーネームを付けて、tweet に返信できます
リツイート (RT)	tweet を転送、拡散することができます
いいね!	お気に入りの tweet に付けてください

Tweet のコツ

コミュニケーションに参加しよう
 あとではなく、「いま」つぶやこう
 興味深いこと、伝えたいことなんでも
 写真は 1000 語に優る
 肖像権・著作権のルールを確認
 ハッシュタグやユーザーネームも一緒に
 演者のユーザーネームを添えよう
 わかりやすくコンパクトに
 学術集会後もつぶやこう



おすすめハッシュタグ

#CancerCareJASCC	日本がんサポーターティブケア学会 twitter
#JASCC19	第 4 回学術集会
#JASCC20	第 5 回学術集会
#CancerCareMASCC	MASCC 公式 twitter
#MASCC20	MASCC2020
#2020join	緩和・支持・心のケア合同学術大会 2020
#JPOS20	第 33 回日本サイコオンコロジー学会学術集会
#JSPM20	第 25 回日本緩和医療学会学術集会

編集後記

ニュースレター第 4 号を発刊いたしました。今年の日本がんサポーターティブケア学会、第 4 回学術集会は青森の地で開催されました。今回はテレビや新聞といったマスメディアにも取材いただき、青森県民および青森県のがん医療者に、がんサポーターティブケアについてより関心を持ってもらえるような試みを行いました。また、学術集会中に公式 Twitter を導入するなどの試みも開始しました。最近では会員によるこの領域の研究報告が活発になっており、これら研究成果の公表にいかにかatch up し、広報していくかの検討が必要な時期に入りました。ニュースレターでは引き続き会員の皆様からの声を募集しております。最後に、ニュースレターにご寄稿いただきました各位には、心より感謝申し上げます。(広報・渉外委員会)